

釧路湿原「自然環境情報図」の進捗状況

1．概要

1) 目的

釧路湿原自然再生事業に関して、関連データの GIS による整備を通じ事業の基本となる地理情報データベースの作成を行うとともに、インターネットを使って釧路湿原データを配信する。

2) 目標

(1) 既存地図情報の GIS データベース化

釧路湿原全域（流域を含む）の地形情報、植生情報、動物情報等の既存情報を総合的な GIS データベースとして構築する。

(2) 時系列データの作成

可能な限り過去からの時系列データベースを作成（航空写真による土地利用情報、ハンノキ分布情報等）

(3) インターネットによる釧路湿原データの配信

釧路湿原自然再生事業に関する情報（GIS データ等）をインターネット上にホームページを作成し公開する。

2．対象地

データ整備の対象範囲は基本的に釧路湿原とそこに流入する河川の流域である。しかし、湿原の自然再生に関しては様々な視点（湿原動態、野生動物、植生等）があり、必要とするデータのスケール（精度）も様々である。そこで今回作成するデータに関しては、流域、湿原、事業対象地の 3 段階のスケールに分類して作成した。事業対象地としては、タンチョウの生息地でもあり、乾燥化が進みつつある湿原南東部の広里地区を取り上げることとした。

3．データの整備状況

釧路湿原全域について地図情報及び文献情報のデータベース化（地図情報については GIS データ化、文献については MSAccess によるデータベース化及び PDF 化）を行う。詳細及び現在の整備状況については、別表一覧のとおり。

今回、追加されたデータを表 3-1 に示す。1977 年の空中写真のオルソ補正画像及び、そのモザイク画像（図 3-1）、2000 年のイコノス画像及び、そのモザイク画像（図 3-2）、2000 年空中写真オルソ画像より抽出した樹林地分布（図 3-3）が新たに追加された。

樹林地分布図は釧路湿原内の主にハンノキを抽出したものである。これは、空中写真の画像解析により作成したものであり、判読の精度は約 1m である。湿原の端にあたる箇所にお

いては、ハンノキ以外の樹林地が多いが、湿原内部においてはほぼハンノキであるため、そのような箇所においてはハンノキ分布図として利用が可能である。

表 3-1 追加データ一覧

項目	数量	資料年度(年)
オルソ画像	285 枚	1977
同上モザイク画像	1 枚	1977
IKONOS 画像	5 シーン	2000～2003
同上モザイク画像	1 枚	2000～2003
樹林地分布図(主にハンノキ)	1 枚	2000



図 3-1 1977 年空中写真オルソモザイク画像



図 3-2 2000～2002 年 Ikonos モザイク画像



図 3-3 2000 年ハンノキ等樹林地分布図(ピンクの箇所がハンノキ等樹林地)及び拡大図

4. ホームページ

情報公開用のホームページを作成し、平成 15 年 4 月より暫定公開を行った。図 4-1 にホームページのコンテンツフローを示す。コンテンツはトップページを中心に、「自然再生とは」、「自然環境情報図」、「NPO サイト」、「ダウンロード」、「掲示板」、「こどものページ」という構成である。それぞれの詳細を表 4-1 に示す。トップページにおいては追加機能として、自然再生にかかわる報告書や文献等の検索を行う機能、最近のニュース、湿原の空中散歩を体験できる 3D 画像、釧路湿原に関する問題点を地図画像を用いて解説するページ等が存在する（図 4-2、3）。



図 4-1 コンテンツフロー

表 4-1 各ページの詳細

ページ項目	概要
トップページ	自然再生の概要、自然環境情報図の概要等、文献、GIS データ検索等を中心に釧路湿原自然再生事業についての概要とトピックスへのリンクをまとめている。リンクされているトピックスは、3D 画像、子供のページ、事業マップ等である。
自然再生とは	自然再生の基本方針、湿原の現状、各事業地の進捗状況等をまとめている
自然環境情報図	自然再生事業を支える地図データの収集方針や収集データの紹介
ダウンロード	これまでの、会議資料、ニュースレター等のダウンロード
NPO サイト	釧路湿原をベースに活動を行っている NPO の紹介及びリンク
子供のページ	湿原とはなんだろう？ということをお子向けにわかりやすく紹介

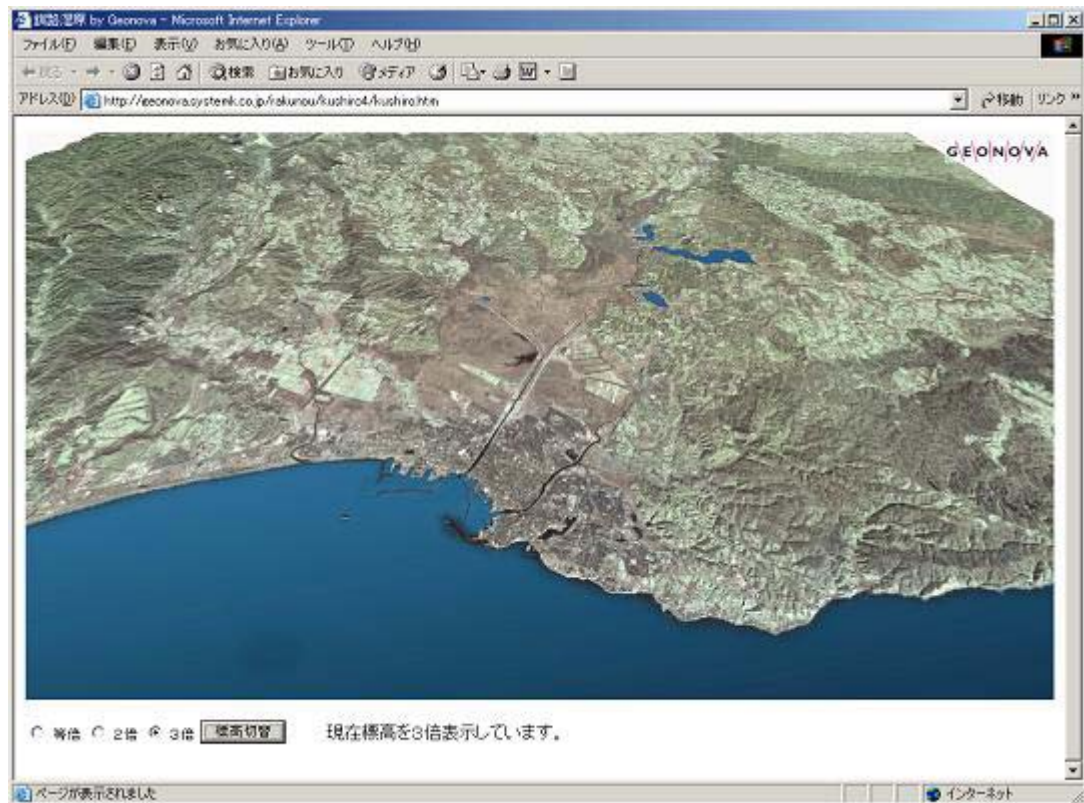


図 4-2 釧路湿原空中散歩（3D 画像）



図 4-3 文献検索画面と検索結果（左；検索 Window、右；検索結果）

5．文献整理

上記ホームページにて公開する文献の整理を行っている。文献は、各文献のスキャン及びPDF化を行い、上述した検索システムにて運用される。

これまでに、公開用サンプルとしていくつかの文献を登録し検索テストを行った結果、順調にシステムが稼動していることが確認された。

現在は、さらに多くの文献を登録するために、関係機関の協力を得て、スキャン、及びPDF化を進めている。予定されている文献数は、数百～数千である。

6．今後の方針

現在までに最もベースとなるGISデータ及び、公開用ホームページがおおよそ整備された。今後は、GISデータの公開用ホームページへの登録、ホームページコンテンツの更なる充実を行っていく予定である。